

はじめに

昨年には、新型コロナ感染拡大により延期されたオリンピック東京大会が開催されました。このオリンピック東京大会を契機として、障害がある人もない人も分け隔てられることなく能力を発揮できる真の『共生社会実現に向けたユニバーサルデザイン化(様々な違いに関係なく、すべての人々にとって良い環境づくりへの取り組み)・心のバリアフリーを推進し、東京大会以降のレガシー(遺産)として遺していくための施策を実行する』という主旨で、2017年に「ユニバーサルデザイン関係閣僚会議」が設置され、「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」が決定しました。この行動計画の加速化を図るため、2018年には「ユニバーサルデザイン 2020 評価会議」が開催され、みんなねっとからも参画し意見を述べてきました。しかし、その実施内容は見える障害への対応が中心となり、精神障害を始めとする「見えにくい、わかりにくい障害」への対応は不十分なまま会議は終了しました。そのような中で、今年度から高校教育の保健体育の教科書に精神疾患に関する内容が盛り込まれたことは、小さな前進ではありますが、次につながる大きな一歩でもあると思います。

また、思うように進まない「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」については、再度、検討会が設置され、相談支援・第8次医療計画(精神科医療計画)・入院制度・意思決定支援・意思の表明についての支援・退院後支援・権利擁護・住居支援など、具体的な課題について検討を重ねています。このような機会には、みんなねっととして家族の立場から、たとえば「家族支援」への取り組みなど、これまでの調査等も含めた活動経験の視点から、あるいは「入院中心ではない地域医療」「訪問支援・訪問医療」の充実など、みんなねっとの提言の内容に沿った視点からの意見を、具体的かつ積極的に発信しています。同様に、各地域においても市町村、都道府県に対して、家族の立場からの意見を積極的に発信していく必要があります。各地域で発信する家族会の声とみんなねっとが発信する国への声が、共鳴しながら届き続けることで、私たちの生活に直結する重要な施策を動かす力になるのです。

精神保健医療福祉へのみんなねっとの提言をまとめるにあたり、全国からは様々な意見を届けていただきました。まずは、この提言を家族会の内外に発信し、会員の皆さまには自分事として理解していただくことが必要です。それと並行した実現のための行動については、世界的パンデミックの影響で、様々に行動制限が課される中ですが、政府関係者・精神保健医療福祉関係者等、広く周知し、協力体制を構築するための手立てを実行していきたいと考えます。

そして提言実現のためにも、家族や家族会からの発言力・発信力を高め、その信頼度を高めることが必要です。法人運営の安定的な基盤づくり、そして正会員である各都道府県連合会の安定的な運営体制、各地の家族会単会の活性化が、今、私たちが直面している重要な課

題です。運営の基本は財源確保と人材確保であることは周知の事実ですが、どちらも即効性のある改善策を見つけることは大変に難しく、でも避けることのできない喫緊の課題です。今できることは、法人本部と各ブロック、各ブロックを通して都道府県連合会が、密につながり合いながら情報交換を行い、課題を共有し、話し合いを積み重ね、より一体感を保ちながら活動をつくっていくことと考えます。

同時に、各地域の家族会の活性化を促す取り組みが、その根本的な課題です。法人としては、様々な家族の立場の方々とのつながりを模索し続けることに取り組んでいきますが、各地域でも、また、様々な立場の家族がつながれる開かれた会運営に取り組まれることを期待します。

昨年からは、全国的にヤングケアラー支援への取り組みが始まりました。これは児童福祉の視点として、とてもわかりやすく取り組みが進めやすい視点であり、とても重要な視点でもあります。しかし、根本的な課題はヤングケアラーだけの問題ではなく、病気・障害がある人のケアが家族依存の状態にあることなのです。そのしわ寄せがヤングケアラーという課題を生み出していることを認識する必要があります。家族支援を法律的に位置づけ、公助としての家族支援策を進めると同時に、共助としての家族会の存在意義を明確にし、家族会支援の体制を作っていく必要があります。各地域の家族・家族会は、支援されるべき存在ですが、それと同時に、同じ立場の家族を支援できる存在でもあります。精神障害者家族会が真の意味で地域に必要とされる存在となるよう、共に知恵を出し合って前に進む一年とするために、以下の計画を提示します。

## 1 本事業計画の趣旨

- ・精神障がい者と家族の願い実現のために「精神保健医療福祉へのみんなねっとからの提言（略称：みんなねっと提言）」としまとめ、精神保健医療福祉改革を広く訴えていく。
- ・法人の持続可能な運営に向け、オンラインシステムの有効利用・強化にも重点を置く。同時に会員拡大と寄附を呼びかける。
- ・多様な立場の家族との連帯と活動の連携・充実

### 【2022 年度重点課題】

- ・精神保健医療福祉諸政策の改革を見据えた「みんなねっと提言」の発表
- ・オンラインシステムの構築と積極的な活用
- ・法人の持続運営にむけた賛助会員（とりわけ WEB 賛助会員）の拡大推進
- ・多様な立場の家族との連携活動の充実（当会事業への積極的な登用）
- ・各ブロックや都道府県連合会とみんなねっとの交流・連携強化
- ・交通運賃割引制度実現への働きかけ
- ・新役員体制の確立（改選）

## 2 基本構想（ビジョン）

- 1) 「法人運営の安定した活動を維持するための組織拡大と WEB の活用」
- 2) 「家族本人の願い・思いであるみんなねっと提言を広く告知し実現を目指す」
- 3) 「多様な家族・市民にとって、みんなねっとの存在意義を示す」

### 2-1) 法人運営の安定した活動を維持するための組織拡大と WEB の活用

- ①法人の持続運営のための全組織的な会員拡大(WEB 賛助会員の募集開始)
- ②法人の財源に応じた政策・事業規模の見直しと寄附の呼びかけ
- ③オンラインの積極的利用によるブロック担当理事を通じた都道府県連合会の集約と交流

### 2-2) 家族本人の願い・思いであるみんなねっとの提言を広く告知し実現を目指す

- ①WEB 賛助会員の本格的な募集と運用。

種別	個人入会	団体入会	納入金額
個別賛助会員 (WEB 賛助会員)	家族会個人、一般個人、みんなねっとサロン登録者	病院・団体・行政など	3600
家族会賛助会員		単会・県連	3000 (3600)
複数賛助会員		病院・団体・行政など	3600
特別賛助会員		株式会社など	5000

- ②課題別要求のとりくみ

- ・めざすべき精神保健医療福祉のあり方の法人方針「みんなねっと提言」（仮称）の発表。
- ・障害者政策への要望反映
- ・関係当局開催の会議・審議会への参加協力及び情報発信と集約
- ・精神障害者への公共交通運賃の割引制度の実現（省庁および国会の場での働き掛け推進）
- ・重度障害者医療費助成制度の適用推進
- ・自立支援医療を入院にも拡大する
- ・生活できる年金のありかたを求める
- ・教育課題は特に高校での実施に向けての積極的な関与を働きかける

- ③調査研究事業

- ・精神科医療等にも活用されることを想定した調査（過去調査の再分析含む）をし、データの蓄積をする

- ④ピアサポート事業（家族会活動の育成強化）

- ・精神障害者家族のオンラインサポートシステム整備の拡充事業【日本財団助成事業】
  - a 公式サイト持続化のための管理体制の構築

- b 相談活動・家族学習会の自主的運営のためのフォローアップシステムの構築
- ・家族向けネットコミュニティ(みんなねっとサロン)のシステム管理と拡充
- ・家族学習会のアドバイザー、担当者の養成：【JKA 補助事業】
- ・地域家族会による家族による家族学習会等の遠隔支援、および都道府県連合会との連携強化

- ・電話等相談の実施

#### ④研修事業

- ・みんなねっとフォーラム
- ・ブロック研修会（オンライン併用など積極的な検討）

### 2-3) みんなねっとを通じた社会啓発と広報活動の充実

#### ①広報啓発活動

- ・月刊みんなねっと誌の発行および電子版発行の具体化
- ・メルマガ・SNS、ホームページ・みんなねっとサロンの連動した展開
- ・みんなねっとブックレット新刊企画・監修・発行
- ・マスコミなど広報媒体への発信

#### ②他団体等との連携

- ・日本障害者フォーラム（JDF）をはじめ、関係諸団体などとの共催事業の検討・実施
- ・日本医療政策機構等関連団体との積極的な連携
- ・障害者権利条約日本勧告に係る国際的な視点からの協働

## 3 組織と事業内容

### 3-1) 機関組織

- ① 総 会 定例年1回（6月15日(水)）
- ② 理 事 会 定例年3回（6月15日,10月26日,3月15日）
- ③ 理 事 懇 談 会 随 時 開 催（目安4月8月12月）
- ③ 代表理事会(打合せ) 月2回以上

### 3-2) 各委員会等

委員会名等	構成員(構成員参照 2021 年度実績)
JR など交通運賃割引 推進プロジェクトチーム	座長：奥田和男、プロジェクト事務局長：堀場洋二 近畿ブロック役員、参加希望都道府県連
政策委員会	委員長： <u>木全義治</u> 書記長： <u>野村忠良</u> 福田正人、藤井千代、長谷川利夫、杉本豊和、 <u>横山恵子、堀合悠一郎、堀合研二郎、眞壁博美、</u> <u>岡田久実子、小幡恭弘</u> （下線は WG メンバー兼ねる）

月刊みんなねっと編集委員会	委員長：桶谷肇、飯塚壽美、菅原かほる、橋口亜希子、 協力員：野村忠良、編集業者：萌文社（谷安正）、
家族学習会企画 プロジェクト委員会	委員長：飯塚壽美、岡田久実子、佐藤美樹子、貫井信夫、 守谷栄二、国分栄樹、杉本富太郎、徳久道照、原晴美、永 野昭二、蔭山正子、横山恵子、大島巖、小林清香、坂本拓 協力委員：天川智子、平間安喜子、柏木彰、倉沢政江、井 汲悦子、二宮史織、中村由嘉子、伊藤順一郎、高森信子 事務局：桶谷肇、松本まゆみ
賛助会員拡大プロジェクト	岡田久実子、木全義治、横山朋子、眞壁博美、吉邑玲子、 前田直
提言実現プロジェクト	岡田久実子、木全義治、横山朋子、下屋敷正樹、奥田和男、 松沢勝

「みんなねっとフォーラム」および「調査事業」は事務局にて対応する

### 3-3) 行政当局・公共団体等の役割受任

当会の目的を達成するためにも、行政当局等への参加と、関係機関・団体への協力を推進する（下記は現時点主な受任を示す \*印は岡田理事長 記載なしは小幡事務局長）

- ① 内閣府障害者政策委員会\*
- ② 厚生労働省 社会保障審議会障害者部会\*
- ③ 厚生労働省 労働政策審議会障害者雇用分科会（下屋敷理事）
- ④ 厚生労働省 地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会\*
- ⑤ 厚生労働省 障害者雇用・福祉施策の連携強化に関する検討会\*
- ⑥ 国土交通省 高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準に関するフォローアップ会議
- ⑦ 国土交通省 国交省・知的・発達障害者等の公共交通利用支援検討会
- ⑧ 国土交通省 公共交通事業者等における接遇ガイドライン等改訂のための検討会
- ⑨ 国土交通省 都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン改訂検討委員会
- ⑩ 国土交通省 公共交通機関のバリアフリー基準等に関する検討会
- ⑪ 国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会
- ⑫ 消費者庁 高齢障害者・障がい消費者見守りネットワーク連絡協議会
- ⑬ 全社協地域福祉部地域福祉権利擁護に関する検討委員会（木全副理事長）
- ⑭ 中央障害者社会参加推進協議会\*
- ⑮ 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター 障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究委員会
- ⑯ 独法) 高齢・障害・求職者雇用支援機構全国障害者技能競技大会競技委員会
- ⑰ 独法) 高齢・障害・求職者雇用支援機構評議員（眞壁理事）

- ⑱ 日本障害者フォーラム (JDF) : 代表者会 \*
- ⑲ 日本障害者フォーラム (JDF) : 幹事会・条約推進委員会
- ⑳ 自由民主党ユニバーサル社会推進議員連盟 \*
- ㉑ 自由民主党政務調査会障害児者問題調査会 \*
- ㉒ 公明党障がい者福祉委員会 \*
- ㉓ 日本医療機構 災害メンタルヘルス有識者会議
- ㉔ 国際障害者交流センター運営協議会 (倉町前理事)

#### 4 法人事業 (当会定款に定める事業) \* 複数の事業にまたがるものも便宜的区分した

##### 1 精神保健福祉の向上に資するための社会啓発・広報事業

- ・月刊みんなねっと、メルマガ発行など
- ・コミュニティーサイトの運営
- ・みんなねっとブックレットの監修・発行

##### 2 精神障がい者とその家族に対する支援事業 (ピアサポート)

- ・電話相談事業 毎週水曜日 10~15 時
- ・みんなねっとサロンと連動した情報提供
- ・家族相談員養成 e ラーニングの普及

<p><b>【日本財団助成】・精神障害者家族のオンラインサポートシステム整備の拡充事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公式サイト持続化のための管理体制の構築           <ul style="list-style-type: none"> <li>① WEB を利用した家族活動の管理や登録者の利便性向上のための管理システムの確立 (公式サイト上での正会員、賛助会員、メルマガ読者などの一括管理)</li> <li>② 事業継続のための公式サイト上での有償会員向コンテンツシステムの導入</li> </ul> </li> <li>・相談活動・家族学習会の自主的運営のためのフォローアップシステムの構築           <ul style="list-style-type: none"> <li>① 相談活動・家族学習会の充実のための動画教材作成</li> <li>② 家族学習会の諸実務の見える化と手続き簡素化 (オンライン申請システム)</li> </ul> </li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p><b>【JKA 補助】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族支援ピアサポートセミナーの開催 (プログラムの普及についての研修会)</li> <li>・家族学習会ファシリテーター(担当者 or アドバイザー)の養成・フォローアップ (プログラムの実施および質を担保する仕組み)</li> <li>・アドバイザー派遣事業</li> <li>・家族学習会企画委員会の開催</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

##### 3 精神障がい者の社会参加を推進するための調査・研究事業

- ・みんなねっと独自調査が具体的に精神科医療等にも活用されることを想定する。  
ワンテーマ別の調査等、過去調査の再分析活用

##### 4 家族会活動の育成強化及び当事者活動の支援を図る事業

- ・ブロック研修会 (主催各都道府県連合会 共催全国精神保健福祉会連合会)

i 北海道・東北、ii 北信越、iii 関東、iv 甲州・東海、v 近畿、vi 中国(兼全国大会)、  
vii 四国、viii 九州・沖縄

- ・家族による家族学習会
- ・オンライン交流会の実施
- ・当事者団体のとりくみへの積極的な参加と障がい当事者性を求められる受任案件等に関する積極的な当事者のとの連携

5 関係機関・団体との連絡調整に関する事業

- ・行政当局・公共団体等の役割受任
- ・みんなねっとフォーラム

6 その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

- ・精神保健医療福祉政策に対するみんなねっと提言(仮称)発表とその他分野の検討
- ・諸要求実現に向けたとりくみ
- ・全国大会「第14回全国精神保健福祉家族大会兼中国ブロック研修会(広島)の開催
- ・山形県連へのバックアップと山口県の組織化

組織図

